

30年3月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成30年 3月1日～ 30年3月10日

2. 調査実施方法

全国の合板工場-1に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
3月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 国産原木入荷動向 Weight. D. I.

品目		30/3月	4月	5月
入荷動向	スギ	8.3	0.0	△ 10.0
	ヒノキ	16.7	△ 16.7	△ 16.7
	カラマツ	8.3	20.0	10.0
	トドマツ	16.7	16.7	△ 16.7
消費動向	スギ	0.0	0.0	△ 10.0
	ヒノキ	16.7	0.0	△ 16.7
	カラマツ	△ 8.3	20.0	10.0
	トドマツ	0.0	16.7	0.0
在庫動向	スギ	0.0	0.0	0.0
	ヒノキ	16.7	16.7	16.7
	カラマツ	0.0	△ 25.0	△ 25.0
	トドマツ	0.0	△ 33.3	△ 33.3

・スギの入荷動向は3月の増加から4月は横ばい、5月は減少に。ヒノキは3月の増加から4月、5月は減少に。カラマツは3カ月連続増加。トドマツは3月、4月の増加から5月は減少に。

・スギの消費動向は3月、4月の横ばいから5月は減少に。ヒノキは3月の増加から4月は横ばい、5月は減少に。カラマツは3月の減少から4月、5月は増加に。トドマツは3月の横ばいから4月は増加、5月は再び横ばいに。

・スギの在庫動向は3カ月連続横ばい推移。ヒノキは3カ月連続増加。カラマツ、トドマツとも3月の横ばいから4月、5月は減少に。

(2) 合板用原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	30/3月	4月	5月
スギ	16.7	10.0	20.0
ヒノキ	16.7	0.0	16.7
カラマツ	40.0	25.0	37.5
米マツ	50.0	33.3	50.0
北洋カラマツ	50.0	33.3	33.3
その他	-	-	-

・スギ、ヒノキ合板用原木の購入価格動向はやや強含み。
・カラマツは需要増により強含み。
・外材は米マツ、北洋カラマツとも強含み。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・スギ、カラマツとも安定した入荷。予定量より生産の遅れが出たため消費は減少。生産できなかった分在庫増。
・スギの入荷は消費量分、カラマツの仕入は今後増える見込み。消費は全体的に横ばいの計画。在庫量も特に変化なしの見込み。
・先々月から比べると順調に入荷。カラマツが難、トドマツが配船の問題あり。消費は3月、4月と稼働日あり生産フルへ。カラマツ、トドマツの在庫持てず。
・カラマツは安定入荷、スギは物件対応の地産地消として購入。消費は横ばい順調。スギのインテリアタイプも消費順調。カラマツは消費が入荷を上回り在庫減少。
・計画通り入荷、消費。カラマツ在庫増。
・3月をピークに4月以降は連休に入り、入荷も減少する。3月をピークに、4月以降は稼働日数が減るため、消費は減る。在庫は横ばいを最低でもキープしたい。

(原木価格)

・スギ、カラマツとも高値に張り付いたまま。
・外材、国産カラマツの価格は上昇している。スギも他地域で値上がりしている模様。
・全てにおいて上昇傾向。特にカラマツと米マツ。
・スギは地域によって価格変動に対応 (B材)。カラマツは需要増により価格上昇。北洋カラマツは入荷減で価格上昇。
・カラマツが3カ月連続高騰。3月以降受入価格再調整。
・購入横ばいをキープする。

30年3月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 生産動向 Weight. D. I.

品目		30/3月	4月	5月
生産動向	構造用(9mm)	0.0	0.0	0.0
	〃 (12mm)	14.3	0.0	0.0
	〃 (15mm)	0.0	8.3	△ 8.3
	〃 (24mm)	△ 7.1	8.3	△ 8.3
	〃 (28mm)	△ 7.1	10.0	△ 10.0
出荷動向	構造用(9mm)	0.0	0.0	10.0
	〃 (12mm)	7.1	0.0	8.3
	〃 (15mm)	0.0	0.0	8.3
	〃 (24mm)	△ 7.1	0.0	8.3
	〃 (28mm)	△ 8.3	0.0	10.0
在庫動向	構造用(9mm)	0.0	0.0	△ 12.5
	〃 (12mm)	0.0	0.0	△ 10.0
	〃 (15mm)	0.0	0.0	△ 10.0
	〃 (24mm)	8.3	0.0	△ 10.0
	〃 (28mm)	8.3	0.0	△ 10.0

・ 構造用合板の生産動向は9mmは3カ月連続横ばい推移。12mmは3月の増加から4月、5月は横ばいに。15mmは3月の横ばいから4月は増加、5月は減少に。24mm、28mmは3月の減少から4月は増加、5月は再び減少に。

・ 出荷動向は9mmは3月、4月の横ばいから5月は増加に。12mmは3月の増加から4月は横ばい、5月は再び増加に。15mmは3月、4月の横ばいから5月は増加に。24mm、28mmは3月の減少から4月は横ばい、5月は増加に。

・ 在庫動向は9mm、12mm、15mmは3月、4月の横ばいから5月は減少に。24mm、28mmは3月の増加から4月は横ばい、5月は減少に。

(2) 構造用合板出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	30/3月	4月	5月
構造用(9mm)	25.0	20.0	20.0
〃 (12mm)	21.4	25.0	16.7
〃 (15mm)	21.4	25.0	16.7
〃 (24mm)	21.4	25.0	16.7
〃 (28mm)	25.0	20.0	10.0

・ 構造用合板の出荷価格動向は全品目とも強含み。

モニターからのコメント

(構造用合板の荷動き)

- ・ 生産予定量減分は24mmと28mmになった。生産部はほぼ出荷した。各品目低レベルでの在庫量。
- ・ フル生産継続中。出荷堅調で、生産分が出荷となっている。在庫も増えていない。
- ・ 連休前までフル生産。出荷は3月、4月と落ち着いた動き、5月連休明けから活発へ。在庫は3月、4月と若干増、5月から減少。
- ・ 針葉樹構造用合板の9mm、15mmは製造効率が悪く荷薄感が高い。住宅の引き渡し時期である2月から3月は年末ほどの忙しさはないと考える。28mmは製造なし。
- ・ 機械調整等により生産一部減。出荷、在庫ともほぼ横ばい。
- ・ 稼働日数により生産量は増減、発注状況に合わせての生産となる。12mm、ネダノンともに流通からの引き合いは強い。在庫量は低水準のまま増える状況にない。

(構造用合板の価格)

- ・ 3月1日からの値上げ発表により価格上昇するが、受注減もあり発表価格まではならない。
- ・ 原材料費、接着剤コスト上昇により、若干値上している。
- ・ この先原材料上昇につき、製品単価も上昇傾向。
- ・ 製造調整、接着剤の高騰も進み販売価格は上がる見込み。28mmは扱いなし。
- ・ 原料高により上昇傾向にある。スピードが鈍い。
- ・ 接着剤（フェノール価格）、石油製品、運賃等コストアップにより3月より価格の値上げを行っ